

高校生による（よくあるような）ラブコメ小説

パイナップル愛好家

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは、インキヤの少年である主人公の二次創作でよく見るラブコメである

【注意】

作者の都合上投稿が途絶えたり登場人物のキャラが崩壊する可能性があるので「大丈夫だ、問題ない」という人のみご鑑賞ください

目次

恋愛はいつもファミレスから始まる	1
そして物語は動きだす	4
高校生によくあるお出かけ回	8

恋愛はいつもファミレスから始まる

俺、滝川秋斗はインキヤだ。中学校生活で仲の良かった友達は一人を除いて全員別の高校に行ってしまった。そしてその友人も陽キャ故に

他の仲の良い友人と絡んでいる、そして当然のようにこの高校では彼を除いて友達はいない。

だがこの俺にも癒しはある。そう、隣の席の「黒崎雪乃」だ。彼女はこのクラスで一位どころか学校内でもトップクラスの美少女だ。ちゃんとケアされた黒髪、雪のように白い、名前に恥じないような肌の白さ、細身だが少しばかり身長が高いのでモデルのように見えるスタイルが彼女を美少女たらしめるのだろうか。先日この学校のサッカー部のキャプテン（イケメン）から告白されたという噂も聞いた。それでも自分には関係のない事だ。仮に恋してもそれは叶わない。叶わない事を言っても時間の無駄だ。それなら俺は自分の好きなきな

ゲームや、学生の本業である勉強に励もうと思う。

キーンコーンカーンコーン……………

と下校のチャイムが鳴ったようだ。今日は友人（さっき話した）と久しぶりにファミレスでゲームや勉強をする予定なのだ。という事なので一回家に帰ってからSwitchを取りに帰って、それからファミレスに行こうと思う。それでは。

…………の前に母さんにゲームをしに行く主旨を伝えてくる事しよう。

「母さん、今日ファミレスで拓哉とゲームするから夕飯いらない」

「あらあら、たつくんと？遊ぶの久しぶりじゃない！分かったわ。

ちゃんと楽しんでくるのよ！ただし、あまり遅くはなんないでね！」

「分かってるよ、それじゃ行ってきまーす」

ふう、やはり友人とのゲームは最高だな。この時だけは子供のよう
に楽しめる。(しっかりと周りに配慮はしています)さて、そろそろ勉
強に移るとしよう。来週にちよつとした小テストがあるからな。

「そろそろ勉強しようぜ」

「そうだな！今日の授業分かんなかったところあるから教えてくん
ね？」

「あーアレな、いいぜ任せとけ」

「流石秋斗さんツス！今日もオナシヤス！」

「なんだそのキャラ」(笑)

「ここなんだけどよー」

「ここはこれをこうして……………」

「おーすげえ！解けた！」

「だろ？」

と勉強していると隣の席から話し声が聞こえてくる。声の高さか
らして女子高生あたりだろうか？それも二人組

「で、どうだったのよ？例のあの子に話しかける事は？」

「……………今日も話しかけれなかったよ……………」

「ありやありや、またかー」

と話していたが、自分には関係の無い事と割り切ってなんか頼もう
とした時に衝撃的な事が自分の耳に入ってきた。

「で、雪乃はなんであの子に話しかけたいわけ？」

なんと隣に座っているのは雪乃さんだったようだ。隣に絶世の美
少女が座っているのだからとてもドキドキしてきた。そしてさらに
耳に入ってきた言葉で、飲んでいた水を勢いよく友人にぶっかけてし
まった。

「……………だつて秋斗君可愛いし、小さい頃に助けてもらったから……………」
……………え？

そして物語は動きだす

「……だって秋斗君可愛いし、小さい頃に助けてもらったから……」

……え？

いやいやなんでだ!? 記憶力は自分でも良い方だと思っではいるが、あんな美少女に会っていたら普通は覚えている筈だろ!? あとなんで可愛いって言われてんだ!?

……と頭の中で混乱していた。するとスマホに一個の通知が入ってきた

奏

お前雪乃さんとどういう関係だよ!? あと水吹きかけてくんない!

これは聞かれるとまずいという事を察しての最善策か。これはありがたいと思い、奏のアカウントにメッセージを送る事にしよう

知らねえよこっちが聞きてえわ

!?

あとそれに関してはごめん!

奏

じゃあなんでこんな爆弾みてえな情報が後ろから聞こえてくん

よ!?

……ちよつと待て。もしかした

ら

分かったかもしれん

奏

何!?

そう、これは大体幼稚園時代のことだ。そんな時の俺も友達がいなく、

一人でブランコを漕いでいた時に彼女を見たんだ。彼女はそんな時から美しく、だけど孤独だった。そんな時の俺は何を思ったのか彼女を遊びに誘ったりしていた。……幼稚園時代の方がコミュ力高いつてマジ?

……という事かもしれん

奏

へーそんな事があつたんか

お前幼稚園の時の方がコミュ力あるやんけ、なんで退化した？

どうやら俺と奏も同じことを思ったらしい。マジで自分に何があつた？と思いつつまた勉強を進めていくのだった。

「今日は楽しかったな！またやろーぜ！」

「そうだな、また空いてる日とかな」

「んじやまたなー！」

と友人に別れを告げた俺は、コンビニでシャー芯や赤ペンを買い足してから家に帰つたのだった。

「ただいまー」

「おかえりー、今日は楽しかった？」

「ああ、久しぶりにあいつとゲームとかできて楽しかったよ。」

「そう、それは良かったわ。」

「うん、それじゃ風呂入ってくるよ。」

……ふう、サツパリしたサツパリした。やっぱり風呂は最高だな！

それにしてもファミレスでの言葉が気になりすぎる。一緒に遊んだだけでああなるとは思わなかった。まさかあの人、

あんま友達いなかった……？いやいやそんなわけ……無いよね？

ヨシー！考えるのやめ！もう寝よ……

と思いつつベットへ身を投げて、思考をシャットダウンさせるのだった

5月10日

今日も喋り掛けられなかったので、試しに親友の美穂に相談してみた。

美穂はとても親身に話を聞いてくれてとても助かった。やっぱりこういう事は日記や人に話すだけでいくらか心の荷が降りるというものだと痛感した1日だった。明日こそは秋斗君に話しかけて見せ

る……………!

翌朝……………

ふうーああああ、よく寝た。つと時間は……………5時半か、少し早起きしてしまったなあ。学校まで時間あるしちよつと走ってこようかな。たまには運動しないといけないし。んじや早速着替えて走ってきますか!

30分後……………

いやー走るの気持ち良かったな。こういう朝があつても悪くないな。

それにしても汗臭いな……………シャワー浴びてこよ

そのあとはいつも通り朝飯を食べ、身だしなみを整えて家を出た。

ちなみに父と母は仕事で既に家を出ているからいない。

学校に着き、いつも通りに授業を受けて一人で昼飯を食べようとした時、俺に時間が起きた。なんと、隣の席の黒崎さんに昼飯を誘われてたのだ!

だが考えてみてほしい。黒崎さんはすごい美人だ、美少女だ。そんな人とインキヤが二人で飯を食べるところなってしまう

「ねえあいつ処す? 処す?」「あいつに限っては死んでも文句は言えねえ」「殺さなきゃ(使命感)」「殺って見せろよマ○ティ、なんとでもなる筈だ! ガ○ダムだと?」「殺りますねえ!」

などといつ殺されるかわかんない恐怖と戦いながら飯を食べなきゃいけないのだ。そんな事できるほど肝は大きくない、だが断つたら黒崎さんに失礼だし殺される。どっちにしても死ぬとか死にゲーかな?

とか考えつつ(この間0.2秒)導き出した結論は

「は、はい。よろしくお願いします(?)」

黒崎さんと昼飯を食べる事だ。流石に誘ってきたのを断るのめ気が引けるからね。

そして高校内の中庭で昼飯を食べる事になった。あそこは日当たりもいいし中心に大きな木があるからそこで食べる昼飯は三割増し

で美味しい（と思う）。そして昼飯を黙々と食べていて思った

（話題がねええええええええええええ!!）

なんか、なんか話題はないのか!?そ、そうだ!なんで飯に誘ってくれたか聞こう!それなら結構話題が広がるぞ!!

「あ、あの、なんで昼飯に誘ってくれたんでしゅか?」

あああああ噛んだアアアアアア!!と内心悶絶していると、耳に囁くような声で理由が聞こえてきた。

「……貴方と、お友達になりたかった……から」

え、マジ?こんな美少女が?俺と?

……:……ほああああああああああああ!!（魂の咆哮）

嬉しすぎる!今まで女友達どころか普通の友達が少なかったこの俺が!、美少女の友達ができる!、嬉しすぎる、嬉しすぎるぞ!これもう今日嬉しすぎて寝れんわ（確信）

その後はたわいもない話を少ししてから教室に戻り、授業を受け、帰宅した。奏は今日他の友達と遊ぶ約束があるらしく、一足先に帰っていった。帰宅後は夕飯までゲームをしたり母の手伝いをしながら過ごし、風呂に入って自室でゆっくりしていた。

それにしてもまさかあんな美少女とお近づきになれるとは……

そう思うとなんだかとても叫びたくなってきたぞ!

「つつつつしやああああ!!」

「うるさいわよ秋斗!!」

と怒られてしまったので軽く勉強してから寝よう。おやすみなさい

い

5月14日

やったっ!やったっ!話しかけた上にお昼ご飯一緒に食べれたっ!

やっぱり嬉しいなあ、初恋の人に話しかけてれるのは。

ここからさらに仲良くなって、ゆくゆくは……えへへ♪

ろ。

一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一

一一一

○月△日

今日は秋斗君をお出かけに誘えた。それにしても秋斗君があのアニメ好きだとは思わなかったなあ……。あのアニメの話できる人なかなか居ないから、話し始めた時ビックリしたあ……。今週末、楽しみだなあ……………！

一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一

一一一

パタン

…………ふう、今日の日記はこんぐらいにしとこうかな……。まさか好きなアニメと一緒にだなんてすごい偶然だね。しかもアレの細かい設定とかまで知ってるとは、流石だなあ……。それにしてもお出かけ、楽しみだなあ……………！

「……………っ！」パタパタパタ

今日はもう寝よ。明日も楽しみだなあ……………！